



IBM: think big

ビジネス・トランスフォーメーション、ビジネス・プロセス・リエンジニアリング、システム調和、集約と統合 - 今日の多くの企業にとって、これらは単なる流行語ではなく、コストをコントロールして競争優位性を保つために取り組んでいる実際のプロジェクトです。お客様の要求は迅速に満たす必要があり、ビジネスの進展には即対応しなければなりません。コア・コンピテンシーへの集中に伴って、可変的なコスト構造が必要になってきています。さらに、企業は潜在的な変化やリスクに対しても十分に備えておきたいと考えています。既応性、柔軟性、集中力、回復力 - これらの属性は、オンデマンド・ビジネスの実現とそれによる新しいフェーズへの移行を目指す企業を表しています。

IBMでは、すでにかなりの段階まで進んでいます。プロセスや構造は、劇的な変化を遂げできました。10年前には16,000のアプリケーションがIBM社内に配置されていましたが、今ではその数は5,000にまで削減されています。この巨大なビジネス・トランスフォーメーション・プロセスには、56億ドルの投資を行いました。これは、投資額の3倍と見込まれているコスト削減によって相殺され、約110億ドルというTCO(総所有コスト)の削減額に相当します。

ITランドスケープの集約、単一化、統合が、この結果に大に関係していることは明らかです。

「IBMが使用しているSAP®ソリューションは、

決定的な役割を果たしています」と、IBMグローバル・サービスのワールドワイド・ベータ・テスト・サイト・マネージャーである Dr. Jan Schaumburgは述べています。そして、彼の同僚であるSAPカスタマー・コンピテンシー・センターのHeinz Schroderは、こう付け加えています。

「このSAPソリューションのコストについては、当初30だったシステムを今は16にまで集約しているだけでなく、毎年さらに20%の節減を達成しています」

多くのお客様の場合と同様に、IBMにとってもTCOの削減は「終わりのないストーリー」です。IBMでは、SAP® R/3®のインスタンスを6つ以内に抑え、全世界のIBMビジネスの相当部分を稼働させるという最終ビジョンを掲げて、将来に向けた統合、集約のためのさらなるステップを計画しています。

IBM : think big

2003年に約900億ドルの売上を計上したIBMは、情報技術分野最大のプロバイダーであり、またオンデマンド・ソリューションのリーダーです。IBMには、170カ国を超える事業所に約318,000名の社員がいます。IBMは現在、ITセクターにおいて最新の情報技術製品をお客様にフルレンジで提供する唯一の企業となっています。IBMの全世界の体制と分業の部門の中には、事業所が24ヶ所、開発研究所が18ヶ所、研究センターが8ヶ所あります。

Overview

◆課題

組織全体にわたるビジネス・プロセスとIT構造の全世界での最適化。標準化ソフトウェアをベースとするハイパフォーマンスなERPシステムの単一化と統合。

◆ソリューション

業界: IT/ハイテク

- ・アプリケーション: SAP® R/3® Enterprise および SAP® for HighTech
- ・ハードウェア: IBM @server® zSeries®, IBM @server® pSeries®, および IBM TotalStorage®
- ・ソフトウェア: WebSphere®, DB2®, Tivoli®, Lotus®
- ・サービス: IBMグローバル・サービス

◆利点

ビジネス・プロセスを単純化し、広範なシステムを調和することによって、劇的なコスト削減を実現し、今後の統合プロジェクトに理想的な基礎を提供する。



2003年に420億ドルという、IBM全体のほぼ半分の売上を計上した IBMグローバル・サービスは、世界最大のITサービス・プロバイダーです。この事業部には、150,000名の社員が所属し、豊富な業界知識と技術コンピテンスを連携させて、あらゆる規模やセクターの企業が競争力を継続的に改善できるようサポートしています。サービスの範囲は、戦略コンサルティングからコンサルティング、インプリメンテーション、ビジネス・トランスフォーメーション・サービスまで、さらにはアプリケーション管理、ホスティング、アウトソーシングに至るまで、多岐にわたっています。

IBMは、1990年代半ばから固い決意をもってトランスフォーメーションに取り組んできました。以前は個々の国内企業に合わせたIBMの企業組織は、抜本的に再構成されました。IBMは、単一化されたプロセス、包括的なITシステム、そして統合されたサポート構造を備えたグローバル・エンタープライズとなったのです。「新生IBM」は戦略的に再構成され、そのトランスフォーメーションは同社の最高レベルの経営陣によって開始されたのです。

SAPソリューションの導入

管理とビジネス・プロセスとの相互作用の強化が必要になったのと同時に、グローバルレベルでのIT構造の調和も必要とされました。つまり、IBMグローバル・サービスの仕事です。「それが非常に困難な課題であることは、疑いの余地はありませんでした」と、Dr.

Schaumburgは笑みを浮かべながら振り返ります。

IBMにおける大きなビジネス・トランスフォーメーションは、1990年代半ばに、中心となるERPソリューションとしてSAP R/3を導入することが決定された時から始まりました。SchroderとDr.Schaumburgにとって、この理由は明らかでした。そして、それは今もなお有効です。

「SAPソリューションの機能性は広範で、他のアプリケーションとの統合能力は、IBMの要件に対応しています。そして、best-of-breed戦略のもとで、SAPとIBMはERP市場のリーダーとして強力なパートナーとなりました」

プロダクション、フルフィルメント、調達、および財務という、IBMの重要なコア・ビジネス・プロセスの中で、SAPソリューションはその価値を実証しながら、全世界の約30,000の指定ユーザーの日常業務を支援してきました。しかしながら、この数字は現行アプリケーション環境の有効範囲全体を表すにはおよびりません。IBMにおける最重要のバックエンド・ソリューションになるにつれて、SAPソリューションは他のアプリケーションおよびWebSphereやLotus製品とも統合され、ユーザーが実際にはSAPのシステム内データにアクセスしていることに気付かないことすら多くなりました。

「318,000名のIBM社員のほぼ全員が、なんらかの形でSAPのシステムにアクセスしています」と、Heinz Schroderは述べています。

「注文処理から生産まで、また会計から事務用品の注文まで、たいていの場合SAPシステムが背景にあるのです」

これらのシステムの大部分は、SAP R/3リリース・レベル4.6または4.7です。最大のシステムは、生産部門(約13,000ユーザー)と業務遂行部門(約8,000ユーザー)で使用されています。このほかに、SAPの業界ソリューションであるSAP for HighTechも使用されています。このトランスフォーメーションは目覚ましい成果をあげ、約11,000のレガシー・アプリケーションが成功裏に置き換えられました。

30から6に : 集約によるTCOの削減

基本的なビジネス・プロセス・リエンジニアリングとそれに関連するアプリケーション管理ポートフォリオの調整に続いて、広範なIT調和が開始されました。手始めに、移行に向けて厳密に必要な数より多い約30のSAP R/3システムを設定することを意図的に決定しました。

「IBMは、急速な単一化を達成し、早く投資利益率を上げるために、数多くのレガシー・システムをできるだけ迅速に置き換えたいと考えていたのです」と、Dr. Schaumburgは述べています。2000年問題への対応やユーロの導入など、他の諸問題も解決しなければなりませんでした。古いシステム環境では、これに巨大な労力とコストが必要だったのです。

統合と集約は、着実に前進しました。新しい、より強力なサーバーが配備され、コンピューター・センターの数は、ブケプシー(米国)とポーツマス(イギリス)の2ヶ所だけになりました。また、保守も単純化され、適切なツールを通じて自動化が進められました。「この数年間、SAPランドスケープのコストは毎年10%から20%ずつ削減できています」と、Schroderは述べています。

最新テクノロジーへの投資が継続的に行われているとともに、ベータ・テスト・サイトが担当するプロジェクトで数多くの新製品のテストが行われていることを考えると、これは目覚ましい成果といえます。今日では、SAPシステムの数は16にまで削減されています。しかし、IBMはさらなる最適化の可能性を見込んでいます。

目標は、本番のSAPのシステムを6つにすることです。

低コスト、高可用性、最適なパフォーマンス : IBM @server

SAPソリューションの障害のない運用は、理想的に調整されたサーバーとストレージ構成によって保証されています。ほとんどのデータベース・サーバーは IBM @server zSeriesをベースとしており、IBM @server pSeriesをアプリケーション・サーバーとして使用されています。プラットフォームの選択に関しては、コストのほかに、安定性と可用性が決定要因となります。一部の領域(本番領域など)では、当然ながら洗練された高可用性ソリューションが必要です。

Storage Area Networkは、いくつかのIBM TotalStorage Enterprise Storage Serverで構成されており、現在では本番領域で5テラバイトを超えるデータ量を処理しています。もちろん、システム管理にはTivoliが使用されています。自動化された「FlashCopy®」機能を使用すれば、本番運用を妨げることなく、データベースのオンライン「ホット」バックアップ(製造分野では簡単に1、2テラバイトの量に達する可能性があります)を実行することができます。



す。この利点は明らかで、自動化プロセス、統合したデータベース、そして緊急時のセキュア・リカバリーなどです。

WebSphere との統合

SAPのシステムは、IBMにおける最も重要なバックエンド・ビジネス・プロセスを継続的にサポートしています。しかし、同じくらい重要なのは、残りのアプリケーションとシームレスに接続しているということです。このようなアプリケーションはまだ 5,000近くも存在しているからです。その理想的なソリューションがIBM WebSphereです。WebSphereは、オンデマンド・アプリケーションの開発、適応、インストール、統合の高速化用に完全調整されたソフトウェア製品ポートフォリオを提供します。これにより、IBM WebSphereは、アプリケーション統合からビジネス・プロセス統合まで、またビジネス・プロセスの登録とモデリングからワークフローを通じた自動化に至るまで、広範なソリューションを提供しています。WebSphere Business Integratorにより、切り離されたアプリケーションやプロセスから包括的ユニットを作成できるようになります。ビジネス統合アダプターは、SAPおよびSAP以外のアプリケーションとスムーズに統合できるようにするとともに、すべてのWebアプリケーション用に使いやすいインターフェースを提供します。アプリケーション間のデータ交換は、WebSphere MQ(異種アプリケーション・ランドスケープを持つお客様によって15年以上にわたり統合ソリューションとして展開されてきた、以前のMQSeries®製品)を通じて行われています。

Dr. Schaumburgは確信しています。

「SAPのアプリケーションをバックエンドに、そしてWebSphereソリューションをフロントエンドに使用することは、最先端の組み合わせの1つです。IBMは、最高レベルの統合を実現しており、当社のあらゆるシステムを互いに接続することができます。WebSphereのおかげで、相互運用性と互換性を心配する必要がありません。結局、同種のランドスケープしか持たない企業はほとんどないので、なんらかの接続が必要なのです」

Dr. Schaumburgの担当領域で実現されたSAPのコンピテンスは、幾度も高い評価を受け

てきました。何と言っても、IBMはSAPの顧客上位10社の1つになっています。そして、カスタマー・コンピテンス・センター(当然、SAPの認定を受けています)の社員は、自分たちの経験を他の企業とも分かち合えるように、頻繁にお客様のプロジェクトに参加しています。

Heinz Schroderは、過去数年の経験を次のように総括しています。

「IBMの場合、『自社の売り物を自ら使用する』というのはまさに事実です。だからこそ、IBMとSAPの顧客になるということがどういうことなのかを正確に把握しています。結局、それは自ら経験してきたことだからです」





IBM Deutschland GmbH
D-70548 Stuttgart
ibm-sap.com

IBM, IBMロゴ, e-business, @server, Enterprise Storage Server, DB2, FlashCopy, Tivoli, Tivoli Enterprise, TotalStorage, WebSphere, pSeriesおよびzSeriesは、IBM Corporationの商標。他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。このパンフレットは、お客様による IBM製品の使用事例をご紹介します。ここで示されている使用結果や利益にはさまざまな要素が関係しています。従って、IBM が同様の結果を保証するものではありません。また、お客様または弊社のビジネスパートナーにより提供された情報の正確性について、弊社は実証また保証しません。

© Copyright IBM Corporation 2004
All rights reserved.



© Copyright 2004 SAP AG
SAP AG Neudorfer Strasse 16 D-69190 Walldorf

SAP, SAPロゴ, mySAP, 記載されているすべてのSAP製品およびサービス名は SAP AGのドイツおよびその他の国における登録商標または商標です。



G588-2656-00